

ひだご坊

No.319

2016年2月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

あらわれでるように

竹原了珠



〔略歴〕
1970年石川県七尾市生まれ。能登教区第14組浄願寺候補衆徒。本山企画調整局参事。元名古屋教区駐在教導。

ある言葉やものを通してうかがいあがるイメージに飛び込み、その先に広がる世界を自分なりに構築して表現し直すことを「二次創作」と言うそうです。最近では、熱心なマンガファンが好きなマンガの世界(原作者の世界)に飛び込み、原作をさらに展開させた物語を創作することがあります。私の息子も、あるマンガを小説として二次創作したいと思っています。その理由は、生きる勇気を与えてくれたからだそうです。人と比べて秀でる能力がなく、卑屈(ひくつ)になつて閉じこもろうとする自分を救い出してくれた。その苦しさを自分なりの表現で原作の世界に織り込みたい。塾帰りの車中で、「自分を生きられ

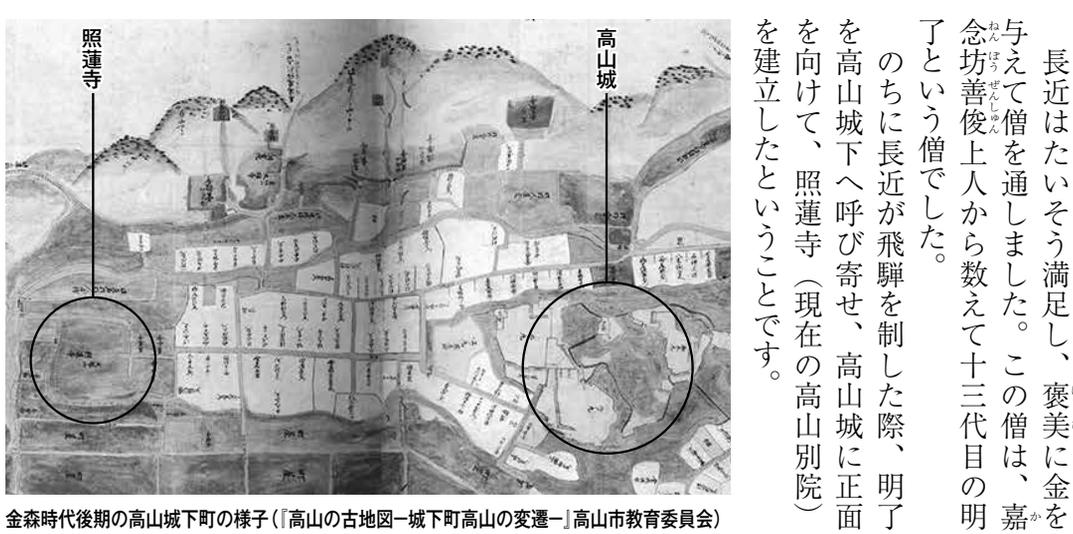
ずに悩んでいる人にこの世界を伝えたい。僕だから伝えられることがあると思う」と彼は言いました。きつと彼からあらわれでる言葉は待っている人がいるはず。お釈迦さまが説法された記録、つまりお経についても同じことが言えます。お釈迦さまが入滅された後もお経は制作され続けていますが、それは必ずしも偽物、海賊版ではありません。お釈迦さまの言葉を通してお釈迦さまが見た世界に入りこみ、響きあひ深い感動を与えてくれた世界を新しく表現しなおすことで、生きた教えとして仏教が伝わり、感動を与えてきたと言っているのです。二次創作、そして制作され続けたお経のように、

ある世界・境地が、それを共有する人たちによって、異なる世界、時代に語り出されてくることは、とても重要なのではないかと感じています。このことを仏教では「応現」とか「化現」、「影向」などといいます。ある世界が異なる世界へ越境してあらわれでるのには、異なる世界に通じる真実と願いがあふれこぼれるほど満たされているからであり、だからこそ人の心を打ち、生きる勇気を与えられるのだと思つたのです。このような、ある世界が時代を超えてあらわれ仕組みが、三百年以上前から伝えられている驚くべき例があることを、私は最近知りました。それは「蓮如上人御影道中」です。福井県あわら市に

は、本願寺第八代蓮如上人ゆかりの吉崎別院があります。毎年勤められる蓮如上人御忌法要に合わせて、多くの方々が蓮如上人(御影)がお乗りになったお輿とともに京都のご本山と吉崎別院の間を歩く仏事、それが「蓮如上人御影道中」です。浄土真宗に関心がある方ならば、是非ともご縁を結んでいただきたいと思つています。その往来で、かつて蓮如上人が立ち寄りられた約百四十もの会所で休憩し、蓮如上人が生きておられるようにご接待をいただき、仏法を聴聞しながら歩くのですが、「蓮如上人様のお通り」の掛け声、いたるところでの蓮如上人に合掌する姿などを通して、蓮如上人が生きいきとあらわれでています。「到着するころには、蓮如上人が私を聴聞のために引つ張つてきてくださったとしか思えないようになつていた」という言葉には、信心を勧めておられる蓮如上人が窺えます。同様の感想は多数聞くことができます。また、「なぜかわからないけれど途中で涙がとめどなく流れてきて、先輩の供奉人にその理由を訊ねると、蓮如上人様に遇われたんだなあ」と教えられた、それが今の聴聞の生活を支えているとい

飛驒の真宗 伝承散歩② 長近と明了

金森長近が飛驒の地を制するため、越前(福井県)から白川郷へ入ったと歩いてくるのが見えました。兵士たちは「なんだ、こんな時に僧など、縁起の悪い」と言つて怒り出し、「せつかくの討ち入りに坊主など、忌まわしい。こんなやつ、斬り捨ててしまおう」などと騒いでいます。旅の僧は笑つて「なんです、あなた方は僧である私に出会つて縁起でもないなどおっしゃいますが、あなた方の大将も法体ではないですか」と言いました。それを聞いた馬上の長近は家臣たちを制し、僧に向かつて「なるほど、わが兵の言うことももっともであるが、そなたの言うことも面白い。私の討ち入りを祝う歌を一首つくつて出せば、そなたを許そう」と言いました。長近をしばしばとみていた僧は矢立(筆と墨壺を組み合わせた携帯用筆記用具)と懐紙を取り出して、一首書いて差し出しました。大将の召した袴は、白革(白川)や、さても見事に、とりし襲(飛驒)かな



金森時代後期の高山城下町の様子(『高山の古地図-城下町高山の変遷-』高山市教育委員会)

う方。「蓮如上人が私をおがんでくださるから」と道ばたで合掌している方にも、蓮如上人があらわれていきます。この人々の言葉がさらに多くの人の心を動かし、信心の生活を生み出していくのです。一方で、私たちの言葉は、深い共感や励ましになるような力を持っているのでしょうか。仏教では上っ面だけの中身の無い言葉(綺語)を禁止しています。それは、世の中を瘦せ細らせ、汚すからで

す。私たちがこの世を脆弱なものにしているかもしれない。生きた言葉を取り戻すためには、私にあらわれでるような真実の世界に出会わなければなりません。それが、この世を本当に豊かにする道だと思つています。

春の彼岸会・永代経法要

亡き人をご縁として仏法に出遇う大切な仏事です。ぜひお参りください。

3月17日(木)~23日(水)	
午後一時から勤行・法話	
17日(木)	小原 憲 氏 (専念寺住職)
18日(金)	岩佐 幾代 氏 (浄永寺坊守)
19日(土)	江馬 雅人 氏 (賢誓寺住職)
20日(日)	白川 磨 氏 (願生寺住職)
21日(月)	三本 昌之 氏 (蓮徳寺住職)
22日(火)	四衢 亮 氏 (不遠寺住職)
23日(水)	出雲路 善公 (別院輪番)

ひだご坊

家族で話そう

私を照らす

ひかりの言葉 ⑫

酒井 義一

糞掃衣というすがた

今から二千五百年の昔、お釈迦さまがこの世におられた頃のことです。出家をした修行者たちは、個人の財産などを持つことをせず、森林や竹林などで共同生活をしながら、修行を積み重ねていました。

修行者たちは、朝と昼の二回、托鉢という行を行いました。鉢(はち)を持って町村に行き、人々から食料や生活に必要なものを施してもらうのです。

ところで、その当時、お釈迦さまが身につけておられた衣を糞掃衣といいますが、それは、人々がゴミのように捨ててしまった布きれを、托鉢をしながら拾い集め、縫いあわせて作った衣です。汚物をぬぐう布でできた衣なので、糞掃衣。あまりきれいな衣ではなかったようです。

しかし、そのようなつぎはぎの衣をまとっているながらも、お釈迦さまのおすがたは、誰が見ても光り輝いていたのです。これはいったい何を意味しているのでしょうか。

捨ててしまいたいこと

人には誰にも、布きれを捨てるかのようにして、捨ててしまいたいことがあるのではないのでしょうか。

たとえば、どうしても納得のいかない過去の出来事です。「あの事さえないければ」と思う痛恨の出来事は、

身を焼かれるかのようです。人と争ったことや、人とのすれ違いも、できれば捨ててしまいたいことなのかもしれません。

親しい人と別れるという出来事は、つらくて切ないことです。そのことによつて人は様々な苦しみや悲しみを抱くものです。

捨ててしまいたい自分と出会うということもあります。思いもかけない自分が沸き上がり、こんなのは自分ではないと、自分で自分を捨ててしまおうとするのです。

そのようなことは、この世を生きている以上、誰もが抱えていることなのではないのでしょうか。

お釈迦さまは、托鉢という行為を通して、人間が抱くそのようなさまざまな苦しみや悲しみを見つめ続けていたのかもしれない。

いずれにせよ、そこには人間が作り出す苦悩の現実があったのです。

光り輝く世界

私たちは、それらのいやなことを捨ててから救われようとしています。まるで布きれを捨てるかのように。しかし苦しみや悲しみはそう簡単に捨てることはできないのです。

そのような私たちに對して、お釈迦さまは、あのおすがたで、何かを語りかけています。

それは、納得できない過去の出来事や悲しい別れ、いやな自分自身などを、捨て去っていくのではなく、それらを置いていかに拾い集め、身にまといながら、なおかつ、光り輝いていく道があるということ、私たちに教えているのではないのでしょうか。

ちなみに、僧侶が現在も着用する

袈裟は、梵語でカシヤヤーといいますが、それは「糞掃衣」のことでもありません。五条袈裟などは、大きな布を細かく裁断して、縫い合わせています。その意味は、ここにあるようです。

過去が救われる

私たちは過去が納得できないのです。そんな私たちに、次の言葉が届けられています。

救いは

過去が救われるということ

それは、納得できなかった過去に意味が見いだされていくということ。それは、過去が救われていくということ。捨ててしまいたいことを抱える者よ。そのことを身にまといながら、光り輝く世界がここにある、その世界をこそ生きよう、と。

お釈迦さまは、そのことをあのおすがたで私たちに呼びかけ続けておられるのではないのでしょうか。

お釈迦さまの呼びかけを聞き、そのような救いの世界への歩みを、確かなものにしていきたいものです。



今回は藤場芳子さんの「女と男のナムアマダブツ」です。

眞宗本廟(東本願寺)御本尊還座式団体参拝募集

今春、本山では、阿弥陀堂の御修復完了にともない、約4年半ぶりに御本尊を阿弥陀堂へお戻しする「御本尊還座式」が厳修されます。

このたびの法縁を機として御修復の完了した本山に参拝し、仏法聴聞の大切な場としていただくことを願い、団体参拝を計画しました。皆様お誘いあわせのうえ、ご参加ください。

期 日 2016年3月31日(木) ※日帰りの参拝となります。
参加費 お一人 10,000円(昼食・夕食、保険料を含む)
募集人数 80名(定員になり次第しめきり)
申込期限 3月10日(水)

※参加申し込みについては、高山教務所までお問い合わせください。

高山三組婦人間法会

日時 2月23日(火) 午後1時 ~ 3時15分

講師 馬川透氏 (高岡教区眞教寺 住職)

講題 「他力の生活」

会費 200円 ※どなたでも参加いただけます。

飛騨御坊御遠忌高札立柱式

日時 3月3日(木) 午後1時

会場 高山別院山門前

嘉念坊善俊上人法要並びに顕彰会総会

飛騨における眞宗の祖、

嘉念坊善俊上人の祥月命日にあたる3月3日、高山別院本堂において法要と総会を行います。総会后、講演会を行いますので、会員以外の方もご聴講ください。(無料)

日時 3月3日(木) 午後1時30分

会場 高山別院 本堂

講師 出雲路 善公 輪番

聖教学習会

日時 3月7日(月) 15日(火)

講師 藤元雅文氏 (大谷大学講師)

講題 「正信偈に学ぶ」

会場 高山別院二階研修室 会費 無料

飛騨御坊限定 蓮の実念珠販売!

現在、ご坊(高山別院)にて「蓮の実念珠」を販売致しております。この蓮の実は、ご坊の蓮池で採れたものを使用しており、年間わずかししか採れない貴重なものです。

仏教において、蓮の花は浄土に咲く花として大切にされています。泥の中にあつて泥に染まらず、綺麗な花を咲かせる蓮の花。私たちもまた、煩惱を抱えたこの身のままに、私という花を咲かせたいものですね。

ご家庭のお内仏で、寺院で、阿弥陀さまに手を合わせ、お念仏される際のおともにかがでしょうか?

念珠は一つ5,000円。高山別院への懇志としてお預かりさせていただきます。

問い合わせは高山別院 (0577-32-0688) まで。



高山教区「平和と人権の旅」

第10回眞宗大谷派ハンセン病問題全国交流集会 私たちの歩み、そこには人がいる ーらい予防法廃止、謝罪声明から20年ー

【開催期間】 2016年4月19日(火)~21日(木)
【会場】 姫路船場別院本徳寺、国立療養所長島愛生園、国立療養所邑久光明園 ※全行程貸し切りバスで移動します。
【募集人数】 20人(定員になり次第しめきり)
【参加費用】 35,000円(交通費・宿泊費・食費込み)
【締切】 3月4日(金)
【申込方法】 高山教務所までお電話ください

定例法座・法話(午後1時から) ○2月21日(日) 澤邊惠秀氏「誓願寺」 ○2月27日(土) 出雲路善公輪番 ○2月28日(日) 夏野了氏「満成寺」 ○3月1日(火) 岩佐幾代氏「浄永寺」 ○3月11日(金) 出雲路善公輪番 ○3月13日(日) 細川寛氏「浄慶寺」